

教員の知人を目指して

応用物理学科 加藤 康之

私は本年 4 月に福井大学に異動してきて新研究室を立ち上げたばかりで、授業に関してもこれまで通りでよいものか焦心苦慮しているところでした。そんななか優秀教員に選出されたとの連絡を受け大変驚きましたが、その甲斐があったのかと大変嬉しく思っております。投票してくださった方が少なからずおられるということが、私の存在が認められたように感じられ、精神的な支えとなるとともに今後の教育への活力の源になりそうです。投票してくださった方だけでなく、授業を成立させるのに協力的だった学生さんにもこの場を借りて感謝申し上げます。また、初年度は授業準備に集中できるようにと本来であれば私が請け負うべき学内業務を軽減していただくなど、さまざまなご負担をおかけした理工学講座、特に数理量子科学分野の諸先生方に感謝申し上げます。

私の 3 年生の担当科目は「統計力学」です。2 年生の担当科目「応用数学 B」、「解析力学」、「応用数学講究」を再履修した学生さんも投票してくださったかもしれません。日頃の教育において最も意識している点は、**私のことを“教員”という別の生き物ではなく、知人（人間）と認識してもらえるように努力すること**です。知人が前でしゃべっていれば授業も今より退屈ではなくなり、結果、浸透率が上がるのではないかと考えています。私が学生目線でこのことに気がついたのは、遅ればせながら大学 4 年生で所属研究室の先生の授業を受けていたときでした。それまで教員は別の生き物で、ともすると敵だとさえ思っていました。しかし、直接お話しした先生方の大部分は良き知人として接してくださる方ばかりでした。そしてそれ以前の学校の授業で、まともに話を聞いていなかったことを悔いたのでした。現在、私も普通の生活をしていて、授業の準備に苦労し、直前になって本当は理解してなかったことに気がついて焦ったり、多くの人の前で話さなくてはならない授業の前日は緊張していたりと至って普通の人間であることがわかってもらえると学生さんたちの学習効率も上がるのではないかと思います。

今後の抱負については、各授業の課題が山積みで途方に暮れてしまいそうになっておりましたが、このたびいただいた活力を基に着実に解決していこうと決意を新たにしております。現在担当中の「応用数学講究」では、アクティブラーニングのジグソー法を実装しています。前職で類似の授業をこれまでに 10 年近く担当してきましたが、この方法の実装は今年度が初めてです。うまく授業が進むか心配でしたが、受講生の協力によって何とか成立しているようです。この機会を通じて受講生同士の交流を促進し、各学年で結束と団結を生み出し、その相乗効果で成長速度を加速的に上げるとともに 20 年、30 年、そしてそれ以上続く関係が築かれる場になることを目指していきます。